

アグリサーチャー ニュース

Vol. 9
2019/06 発行



アグリサーチャー

農業研究見える化システム

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp>

最新の研究成果と研究者を簡単検索。
生産者と研究成果とを未来へ繋ぎます。

アグリサーチャー

検索



今月の研究成果トピックス (アグリサーチャーHPより)

もち性二条裸麦(もち麦)品種「キラリモチ」

農研機構が開発した「キラリモチ」は、炊飯などの加熱調理後に褐変しにくい特長があります。また、もち性であるため食感が優れ、その健康機能性が注目されている食物繊維のβ-グルカン※が、うるち性品種よりも多く含まれます。

※大麦のβ-グルカンは水溶性の食物繊維で、摂取することによる健康機能性は、内臓脂肪の減少、食後血糖値の上昇抑制、腸内細菌叢(腸内フローラ)の改善、コレステロールの低減などが報告されています。

研究機関: 農研機構西日本農業研究センター

研究者: 吉岡 藤治(ほか7名)

■研究成果はこちら



食物繊維が豊富なもち性大麦品種をご紹介します



<炊飯後に褐変しにくい特性>



18時間保温後の炊飯麦
(左:キラリモチ、右:イチバンボシ)

研究者の声 吉岡 藤治さん

2009年度に育成された「キラリモチ」は、従来品種と比べて①炊飯後の褐変が極めて少ない、②もち性で食感が良い、③β-グルカン含量が高い、という品質特性を合わせ持つため、国産“もち麦”普及の先駆け品種として需要と生産拡大を図ってきました。収量は標準品種の約85%と劣りますが、高付加価値の農作物を作りたいという熱意のある全国の生産者から作付けが拡がり、今では数百haで生産され、販売商品も増えてきました。今後も大麦全体の消費と生産拡大が促進されることを期待しています。



■研究者情報はこちら



■この品種の産地化をすすめる 岡山県美作市の取組 (市担当者のお話)

市内の老人保健施設で主食に「キラリモチ」を取り入れて便秘軽減効果が認められたことをきっかけに、市内で作付けが始まりました。麦作は初めてでしたが、毎年面積を拡げて今では約45haを作付けています。

同時に市民への普及活動も進め、ゆるキャラ(もち麦くんときらり)やPRソング・ダンスができるなど、“もち麦”は新しい特産品となりつつあります。



■Webアクセス情報 (2019年5月)

訪問者数: 8,717名 (累計: 213,140名)

■イベント情報

- ・第26回東北農研市民講座 (岩手県盛岡市)
「野菜産地を守るために必要なことは?
～忍びよる土壌病害との向き合い方～」
2019年7月6日(土曜日) 9時30分～10時30分
農研機構 東北農業研究センター 北辰興農閣研修室
- ・農研機構サイエンスカフェ 第10回 つくば市に棲む身近な虫たちの世界 (茨城県つくば市)
2019年7月20日(土曜日)10時00分～11時30分
豊里交流センター

[このほかの情報はこちら](#)



発行: 農林水産技術会議事務局 研究企画課 アグリサーチャーチーム
お問い合わせ: 03-3501-9886 (上原、佐藤、北山、菊池、國本)

スマートフォンから手軽に研究成果・研究者を検索！



アグリサーチャーにロボットとの対話型検索システム（チャットボット）を本格導入しました

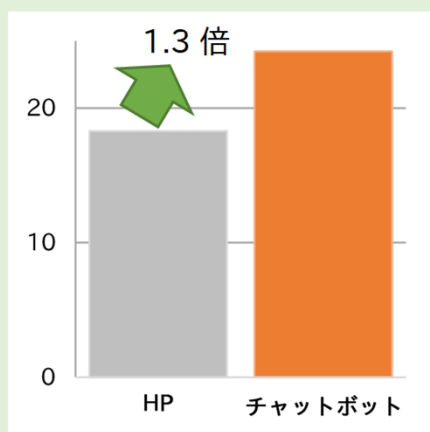
「アグリサーチャー」の利便性の向上と利用拡大に向けて、2019年1月17日から3月末までロボットとの対話型検索システム（チャットボット）を試験導入し、800名を超えるユーザーに活用いただいた結果、その効果が認められましたので、4月25日から本格導入しました。

※「チャットボット(Chatbot)」とは、チャット(会話)とボット(ロボット)を組み合わせた言葉で、人工知能を活用した「自動会話プログラム」のことです。

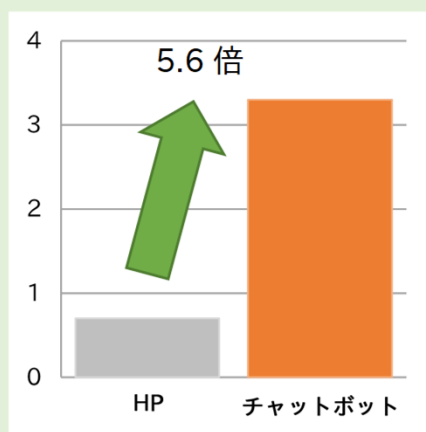
試験導入の成果

※ 数値は試験導入期間の1ユーザ当たり数

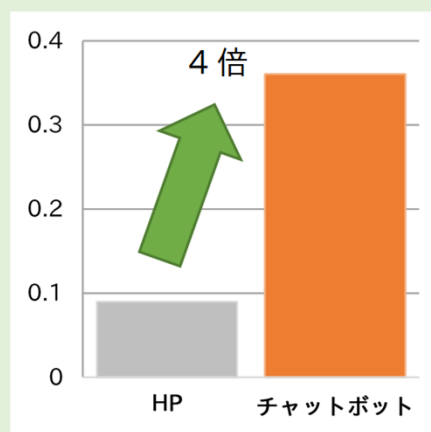
①クリック数



②検索数



③研究成果情報へのアクセス数



※ アクセス数上位20位までの研究成果を比較

対話型検索システムはHPより簡単に検索でき、研究成果情報へアクセスしやすい。

ユーザーアンケート

Q1 使いやすいですか。

選択肢	選択数	割合
☆☆☆☆☆	6	7%
☆☆☆☆	15	18%
☆☆☆	37	45%
☆☆	19	23%
☆	5	6%
合計	82	

※ 星が多いほど使いやすい

Q2 今後も続けるべきですか。

選択肢	選択数	割合
続けるべき	19	23%
改善しながら続けるべき	56	68%
どちらとも言えない	7	9%
やめるべき	0	0%
合計	82	

Q3 何を改善すべきですか。

選択肢	選択数	割合
検索機能の強化	27	33%
研究成果情報の充実	40	49%
会話機能の充実	8	10%
その他	7	8%
合計	82	

研究成果情報の充実と検索システムの改善を図りつつ、今後も継続すべきとの声が多い。

今後も研究成果情報の充実や検索システムの改善等、より一層の利便性の向上を図ります。

登録はこちら

